

アレルギーの血液検査について

毎年3月になるとアレルギー検査を希望するアトピーの患者さんなどが増えてきます。新学期からの除去食の内容を再確認するのが目的です。当クリニックでは血液検査でアレルギーの有無を判定していますが、その数値は絶対的評価ではなく、私のこれまでの経験を加味しながら説明しています。

もちろん一番確実なことは、原因と思われる食物を除去して症状が改善し、また実際に食べてみて症状が悪化するのを観察する「除去・負荷テスト」が確実です。

さて、アレルギー反応はI型からIV型までの4種類あります。臨床的に重要なものはI型(はっきり型、即時型)とIV型(かくれ型、遅延型)です。

I型アレルギーは、抗原(異物)が体内に入るとIgE抗体を作り、抗原・抗体反応によってヒスタミンなどのアレルギー反応を起こす化学伝達物質が出てくる反応です。

アトピー性皮膚炎の原因を探すための血液検査として、様々な食物やダニなどに対するIgE抗体検査があります。しかし、例えば卵白に対するIgE抗体値が高くても、実際に卵を食べても大丈夫な例もあり、また逆もあるのです。そのためアトピーはI型アレルギー反応ではなく、IV型アレルギー反応が主であるという説があります。

IV型アレルギーは、抗原(異物)が皮膚から体内へ侵入してくると、白血球のひとつであるTリンパ球や好酸球などの炎症性細胞が集まって、細胞障害性蛋白を放出させて皮膚に炎症を起こします。これを反映する検査は、血液中の好酸球数を調べますが、アレルギー反応の程度は分かりませんが原因はわからないのが欠点です。

一般的に血液検査では、「総IgE抗体値」と「特異的IgE抗体値」を調べています。総IgE抗体値は、すべてのIgE抗体の量を測定しています。年齢により基準値が異なります。目安として

6ヶ月未満：5 IU/ml以下

1歳未満：10 以下

3歳未満：30 以下

5歳未満：50 以下

5歳以上：100以下

成人：173 以下 を採用しています。

特異的IgE抗体値は、卵や牛乳など特定のIgE抗体値を示しています。(一般的に「ラスト値」と呼ばれています)

クラス0~6まであり、

クラス0(測定値 0.34 UA/ml以下)：陰性

クラス1(測定値 0.35~0.69)：疑陽性

クラス2~6を陽性としています。

ちなみにクラス5と6は臨床的にクラス4と変わりありませんので、説明時にはクラス4が最高値とっております。

クラス2(測定値 0.70~3.49)

クラス3(測定値 3.50~17.4)

クラス4(測定値 17.5~49.9) です。

実際に症状が出やすいクラスは、クラス3~4です。クラス2は一応陽性ですが、症状が出る時もあれば、出ない時もあるというクラスです。

IgE抗体値は、現在の病状よりも過去の感作歴を反映する傾向があり、治療効果や経過観察には向かない場合もあります。しかし、他に原因を探す簡単な方法がないために血液検査が普及しています。当クリニックでも血液検査の結果は、7割の信頼性と説明しております。(たまなは)